

決め球を磨く

校 長 武井 正明

昨日、竹野介助員が「校長先生、今夜晴也君が投げますよ」とおしえてくれた。

田中晴也…千葉ロッテ投手。長岡南中 - 日本文理からドラフト3位で入団3年目の20歳。
竹野介助員の息子さんは高校時代、捕手として田中投手の球を受けてきた球友だ。

そして夜。彼の投球に釘付けになった。鍛え上げた体は高校時代よりもシャープに、強靱に映った。走者を背負った場面になるとギアを一段上げて最速156kmの快速球で三振に斬って取った。昔の江川卓みたいだ。新庄監督ファンの私も、今夜ばかりは田中の応援だ。これでもかと投げ込む渾身のストレートに魂が籠っていた。7回95球2安打8奪三振の快投で、見事今季初勝利を飾った。

皆さんには得意なこと、自分にはこれがあると信じられるものがありますか？

中学生である今の皆さんには、それを持っている人はまだ少ないと思います。これからそれを探していく旅が、やっと始まったところかな。

私は教員になって以来、学級だより、学年だより、生徒指導だより、進路指導だより、野球部だより、教育センターだよりと、本当に数えきれないお便りを出し続けてきました。

言葉というのは諸刃の剣です。自分の大きな持ち球にもなれば、それで人を傷つけてしまうこともありました。だから、お便りが教育に有効になるよう、最善の努力と慎重さを要することを自戒しています。

そして今、私の大きな拠り所となっているのが「学校だより」であり「校長 vision」です。結局、自分が必死に磨いて長年継続してきたことが、最終的に信じることのできる、自分の決め球になるのだと、改めて思います。

田中晴也は、最大のピンチに勝負する球に、最も自分が磨いてきたストレートを、信じて投げ込んだ。今のまま行けばいい。吉井監督は「期待しかない」と言って下さっている。

38歳下の若武者から、私は力をもらった気がする。

吉田中学校だより4月号、今日配布します。毎号、渾身の熱量を込めて発行しています。吉中校長としての私の思い、願い、息遣いを受け取っていただけたら、こんなに嬉しいことはありません。